経営比較分析表（平成30年度決算）

秋田県大館市　総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	学術・研究機関出身
経営形態	**診療科数**	**DPC対象病院**	**特殊診療機能　※１**	**指定病院の状況　※２**
直営	25	対象	ド 透 未 訓 ガ	救 臨 が 感 災
人口（人）	**建物面積（㎡）**	**不採算地区病院**	**看護配置**	
72,623	43,423	非該当	７ ： １	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
375	－	6
許可病床（精神）	**許可病床（感染症）**	**許可病床（合計）**
60	2	443
稼働病床（一般）	**稼働病床（療養）**	**稼働病床（一般＋療養）**
353	－	353

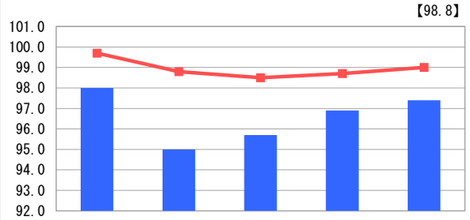
グラフ凡例
- ■ 当該病院値（当該値）
- ー 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

※１　ド…人間ドック　透…人工透析　Ｉ…ＩＣＵ・ＣＣＵ 未…ＮＩＣＵ・未熟児室　訓…運動機能訓練室　ガ…ガン（放射線）診療
※２　救…救急告示病院　臨…臨床研修病院　が…がん診療連携拠点病院　感…感染症指定医療機関　へ…へき地医療拠点病院　災…災害拠点病院　地…地域医療支援病院　特…特定機能病院　輪…病院群輪番制病院

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

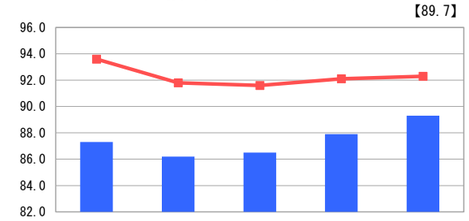
【98.8】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	98.0	95.0	95.7	96.9	97.4
平均値	99.7	98.8	98.5	98.7	99.0

②医業収支比率(%)

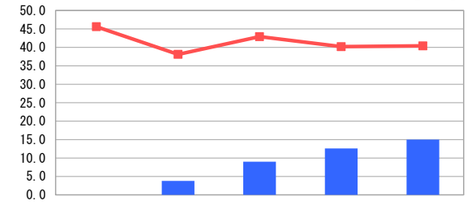
【89.7】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	87.3	86.2	86.5	87.9	89.3
平均値	93.6	91.8	91.6	92.1	92.3

③累積欠損金比率(%)

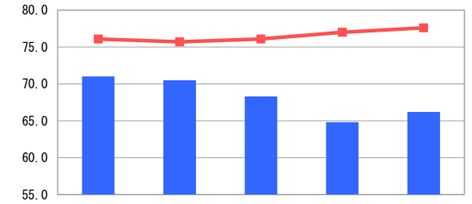
【64.1】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	0.0	3.8	9.0	12.6	15.0
平均値	45.6	38.1	42.9	40.2	40.4

④病床利用率(%)

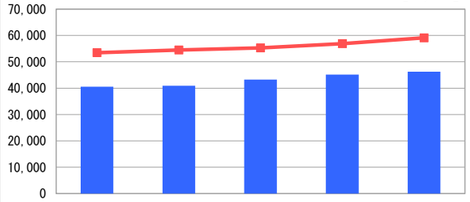
【74.9】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	71.0	70.5	68.3	64.8	66.2
平均値	76.1	75.7	76.1	77.0	77.6

⑤入院患者１人１日当たり収益(円)

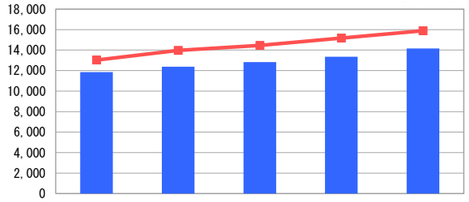
【52,412】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	40,560	40,922	43,265	45,183	46,220
平均値	53,447	54,464	55,265	56,892	59,108

⑥外来患者１人１日当たり収益(円)

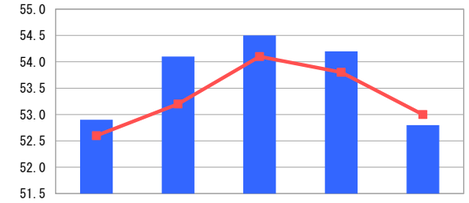
【14,708】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	11,853	12,383	12,822	13,349	14,156
平均値	13,027	13,969	14,455	15,171	15,887

⑦職員給与費対医業収益比率(%)

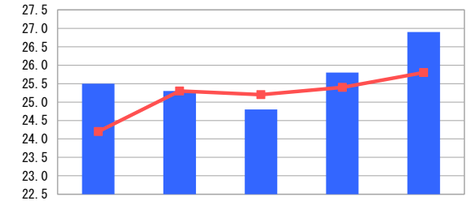
【54.8】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	52.9	54.1	54.5	54.2	52.8
平均値	52.6	53.2	54.1	53.8	53.0

⑧材料費対医業収益比率(%)

【24.3】

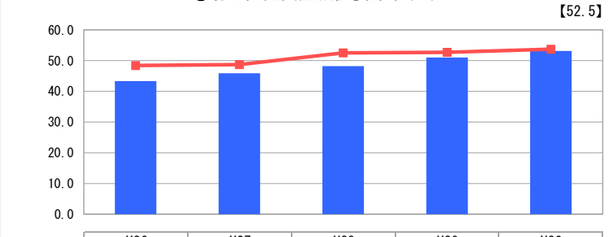


	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	25.5	25.3	24.8	25.8	26.9
平均値	24.2	25.3	25.2	25.4	25.8

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

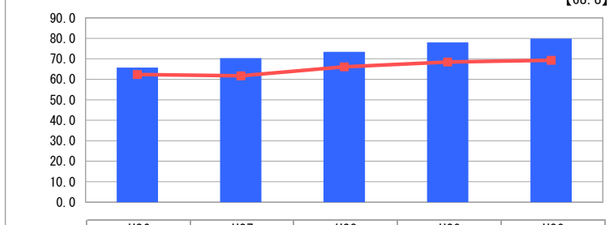
【52.5】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	43.3	45.9	48.2	51.0	53.1
平均値	48.4	48.7	52.5	52.7	53.7

②器械備品減価償却率(%)

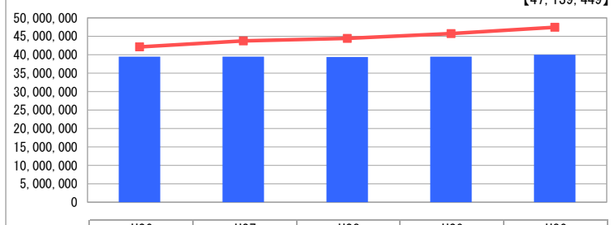
【68.8】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	65.7	70.3	73.4	78.0	79.9
平均値	62.3	61.7	66.1	68.4	69.3

③１床当たり有形固定資産(円)

【47,139,449】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	39,498,903	39,479,151	39,383,296	39,503,815	40,001,783
平均値	42,112,933	43,764,424	44,446,754	45,729,936	47,442,477

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
－ 年度	－ 年度	－ 年度

Ⅰ 地域において担っている役割

「大館・鹿角圏域」の中核病院として、次の役割を担います。
①急性期医療の提供
②救急告示病院としての役割
③精神科拠点病院としての役割
④周産期母子医療センターとしての役割
⑤回復期医療の提供と在宅復帰支援
⑥認知症疾患医療センターとしての役割
⑦地域医療連携の推進

Ⅱ 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、②医業収支比率は、前年度より入院・外来とも患者数が増加したことにより収益に改善がみられました。しかし、単年度収支の赤字は続いており、収入の一部を一般会計からの繰入金に依存している現状にあります。
赤字の継続による③累積欠損金比率の上昇を抑え、解消に向かうためにも、収入の根幹となる診療収入の増加が不可欠であり、④病床利用率の改善対策が急務となっています。
また、⑤入院患者・⑥外来患者の１日当り収益が上昇し、⑦については給与費の比率が低下していますが、どちらも⑧の増加の原因である抗がん剤等の使用増による薬品費の増加が影響しています。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、ほぼ平均値となっていますが、②機械備品減価償却率については平均を上回っており、昨今の経営状況により建設投資を抑制してきたことによる設備機器の新規購入と更新の遅れが原因となっています。
これにより、③の１床当り有形固定資産が平均値を下回る結果に繋がっています。

全体総括

30年度は、収益確保対策として急性期一般入院料Ｉの施設基準を維持するため、一般病棟の重症患者割合の増に取り組むとともに、地域包括ケア病棟の活用促進を図りながら収益増に努めました。また、平成30年10月より鹿角地域の産科機能が当院へ集約されたことから、分娩室等の施設設備の整備と産婦人科医師の増員を行いました。その結果、純損失は前年度より減少しましたが、依然として厳しい経営状況が続いています。
近隣の公的医療機関の機能縮小や個人病院が閉院するなど、地域を取り巻く医療環境は変化しています。今後は地域の中核病院として、高度医療の提供に努めるとともに、将来の医療需要を見据えた地域に必要とされる医療機能の整備に取り組みます。